



—東地中海地域ニュース—

中東和平：ガザ封鎖緩和に向けた関係者の協議

(10日付ハアレツ紙)

10日付ハアレツ紙は、イスラエル、エジプト、PA（パレスチナ）およびカルテットによる、ガザ封鎖の緩和に関する協議について報じている。

1. 最近、イスラエル、エジプト、PA およびカルテットは、ガザへのさらなる通行・搬入の拡大にかかわる合意を取りまとめる協議を行っている。イスラエル治安関係者は、新たな合意には少なくとも1カ所の貨物専用通行所の開設も含まれており、PA 警察官が通行所に2年ぶりに配置されることも検討されていると述べた。
2. ガザ封鎖の軽減措置については、先週のガザ人道船拘束事件以前から検討されていたが、それ以来、本件に関する協議は加速化されている。協議は、幾つかのチャンネルで行われているものの、合意内容が文書化される段階にまで至っているかは不明である。また、ハマースも国連およびEUとの協議の一部に密かに関与している。
3. 国連、EU および米国等の各部隊を含む国際監視団による貨物の通貨を検査することが協議されている。2007年にガザ地区がハマースにより制圧されるまで、通行所の監視はEUにより運営され、パレスチナ側でPA 大統領警護隊とエジプト側で同国軍部隊がそれぞれ監視していた。イスラエル側は、ケレム・シャローム通行所に設置されていたカメラで監視することが合意されていたが、実際にはイスラエル側が不審と思われる貨物や通行者の検査が十分に行なわれなかったことを理由に、国際監視措置は失敗であったと見なしている。
4. 現在、ラファハ通行所に大統領警護隊が再度駐留することが検討されているが、ハマースは、この駐留およびイスラエル側がカメラを設置することに反対している。7日、イスラエルおよびPA 関係者が追加的な搬入許可品目と他の貨物通行所の開設について協議した。

◎本「かわら版」の許可なき複製、転送、引用はご遠慮ください。

ご質問・お問合せ先 財団法人中東調査会 TEL:03-3371-5798、FAX:03-3371-5799